

令和7年3月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

I. 日 時 令和7年3月21日（金） 15時00分～17時16分

II. 出席者 横手学長、香藤、河田、草開、黒木、塩尻、島田、銭谷、西堀、舩橋、
正宗、森島、
中谷、後藤、藤江、小澤、丸山、堀、岩崎、小林、伊藤、三木、大鳥各委員

がざー 大井監事
(欠席者：岩田、渋沢、宮坂、諏訪各委員)

※下線はオンライン出席

III. 1月経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

IV. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 全学規程等の制定改廃について

丸山理事から、全学規程等の制定改廃について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

2. 国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正等について

丸山理事から、国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正等について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。
主な意見は以下のとおり。

◎ 公務員規程に準拠したような改正は、現在一般市場との競争力の観点から十分なものとなっているのか。

○ 法人化以降、国立大学は人事院勧告に準拠するかたちで対応してきたが、近年は民間が非常にベースアップしており、優秀な教職員の確保等に対して、このままの体系でよいのかという課題がある。原資がない状況ではあるが、現在、国が次期中期目標・中期計画のなかで人事院勧告への対応をどうするか検討し始めている。国大協もこの課題に対して、今後の国の動きを睨みながらどのように対応していくか考える必要がある。

3. 令和7年度予算編成（案）について

丸山理事から、令和7年度予算編成（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。
主な意見は以下のとおり。

◎ 非常に厳しい予算繰りだが、他の国立大学も同じような状況なのか。千葉大学で今の
ような積立金の取り崩しはどのくらいもつのか。また、長期的な予算繰りが立てづらい
状況かと思うが、そのあたりの問題意識はどうか。

- 千葉大学のように病院の再開発が済んで償還金の返済に苦しんでいる大学と、物価等の高騰により設備更新が先延ばしとなって診療等に課題を抱えている大学がある。病院と日々相談しつつ、コスト削減、病床稼働率の目標達成に向けて取り組みながら、赤字幅を減らしていきたいと考えている。
- 積立金は現在のペースでいくと3年はもつ予定だが、外部環境の変化等で他に必要となる可能性がある。できれば、2～3年で構造改革を行い、次に進めていきたいと考えている。
- 昨年度、42国立大学で初めて赤字に転じ、トータルで60億円の赤字となった。今年度は大体260～300億円の赤字になると言われており、千葉大学のみならず、国立大学はどこも苦しい状況である。
- ◎ 千葉大学の人件費総額は昨年度と比べてどのくらい上がるのか。
- 一般会計分では昨年度当初が約181億円、今年度は174億円となっているが、退職手当の減額の影響が大きいと、基本的には同額と考えている。病院は超過勤務手当の縮減により、約4億円の削減を見込んでいる。
- ◎ 給与全体を上げる際には、国からの支援の有無等、様々な問題があるかと思うが、原資との関係はどのように考えているのか。
- 現在、人事院勧告に対応する交付金の増額がなく、現中期目標・中期計画期間中に新しい発想が決まらない限りは、学内でやりくりするしかない状況である。学内だけでの対応は限界にきており、仮に次年度も大幅な給与増額の勧告がでた場合、真にどのように対応するか等の決断をする必要があると思う。
- ◎ おそらく人事院は今後も給与引き上げの勧告をすると思う。運営費交付金で人件費を賄うのは限界にきており、教育・研究に支障がでてしまう可能性がある。国大協も、この問題をより一層重視し、国に対して運営費交付金の改善についてもっと声をあげるべきだと思う。
- ◎ 千葉県からの補助金はどのような目的のものか。用途は縛られているのか。
- 病院の経営支援を目的としており、国と千葉県でお金を出し合いながら支援している補助金である。
- ◎ 予算が非常に厳しいなかで、グローバル人材育成をサステイナブルなカタチでどのように行なっていこうと考えているのか。海外から人材を誘致するにあたって、給与レベルも非常に重要である。
- 土地の活用も含め運営費交付金以外の多様な財源を、もう少し幅広に活用することを考えている。すべてを授業料に依存することは無理なので、そのような方向で進めることも検討していきたい。

- スーパーグローバル大学での様々な経験や資源を、今後も継続的にどのように行っていくかについては、概算要求を進めることや別の補助金に継続的に応募する等により、財政的な基盤をしっかりと作ることによって維持発展させていきたいと考えている。
- ◎ 政府が、大学の国際競争力をどう高めるかといった観点に立ち、人員や予算等の資源を集中的に投下していく姿勢が必要ではないかと思う。国大協等を通じて是非よい方向へ進めていただきたい。
- ◎ 子会社の経営が軌道に乗った場合、子会社から大学へ寄付、あるいは繰り入れ等も視野にいれているのか。
- 4月から子会社を立ち上げ、まずは共同研究スペースの賃貸料からスタートし、その後コンサル的な部分も含めて収益を上げていきたいと考えている。また、事業が拡大していった際には、大学へ入れていただくことも考えている。
- ◎ 私立大学全国567の学校法人のうち、101法人が赤字であり、うち16法人が極めて厳しい状況となっている。国立大学だけでなく、私立大学とともに手を組んでいく必要がある。

V. 報告事項

1. 千葉大学 100%出資子会社の事業計画（案）の変更について
藤江理事から、千葉大学 100%出資子会社の事業計画（案）の変更について、資料に基づき報告があった。
2. 医学部附属病院の運営状況について
大鳥副学長から、医学部附属病院の運営状況について、資料に基づき報告があった。
3. 令和7年度執行部体制及び部局長等の選考について
横手学長から、令和7年度執行部体制及び部局長等の選考について、資料に基づき報告があった。
4. 令和7年度国立大学一般選抜志願者数について
小澤理事から、令和7年度国立大学一般選抜志願者数について、資料に基づき報告があった。
5. 令和7年度経営協議会開催場所等の変更について
宮近企画部長から、令和7年度経営協議会開催場所等の変更について、資料に基づき報告があった。
6. 千葉大学ビジョンについて
横手学長から、千葉大学ビジョンについて、資料に基づき報告があった。
主な意見は以下のとおり。

- ◎ 現代に非常に適したビジョンで、大変感銘を受けた。グローバルに通用するために、英語版を作成する予定はあるか。
- 現在、英語版を作成しているところである。英語版ができた際には、是非ご意見を賜りたい。
- ◎ このビジョンをベースに各部門が具体的に肉付けしていくことが大事である。執行部がなにを重視してやっていくのか、大学の差別化や魅力ある大学へ向かうことを期待している。
- ◎ ビジョンも大事だが一番大事なのは経営であり、経営状況が厳しい前提のもとに、スピード感をもって考える必要があると思う。また、千葉大学の競争相手は世界であり、強みをどのようにより伸ばしていくのかを考える必要がある。
- ◎ このビジョンを職員や学生、地域社会に共感してもらうために、イベントを開催する等により、意見交換や情報発信する努力が必要になると思う。ビジョンを活用して、世界的にも特色ある大学として千葉大学が赫々たる評価を得ていただきたい。
- 学長のリーダーシップのもとで、どのようにビジョンを具体化していくかといったプランを出していただきたい。そのために今後、執行部に協力していきたいと思う。また、このビジョンが永続的な大学ビジョンとなっていくことを望んでいる。

7. 学長選考・監察会議の学外委員の選考方針等に関する検討依頼について

西堀学長選考・監察会議長から、学長選考・監察会議の学外委員の選考方針等に関する検討依頼について、資料に基づき報告があった。

以 上